

第6回

羽州街道交流会・七ヶ宿大会

参加レポート

作成:井上 進也 / 仙台市在住[株式会社福山コンサルタント勤務]

日程:平成 22 年 5 月 22 日(土)23(日)

1 日目 5 月 22 日(土)

- 1 部 交流会(会場:七ヶ宿町活性化センター)
基調講演「羽州街道と地域づくり」村松 真 氏(山形大学 人文学部助教)
シンポジウム「街道が地域づくりを変える」
- 2 部 交流会「街道談義」(会場:湯原コミュニティセンター)

2 日目 5 月 23 日(日)

歴史街道探訪会 ~ 羽州街道「金山峠と干蒲宿の旧街道をたどる」~
山形県上山市榎下赤山 - 金山宿 - 金山峠 - 鏡清水 - 七ヶ宿町干蒲宿

主催:第6回 羽州街道交流会 七ヶ宿大会実行委員会

共催:七ヶ宿町 羽州街道交流会

後援:とうほく街道会議 みやぎ街道交流会 ふくしまけん街道交流会

南とうほく街道ネットワーク 三宿地域連携協議会

NPO 法人奥州街道会議 七ヶ宿町商工会 七ヶ宿町観光協会





図1 七ヶ宿の位置

七ヶ宿(宮城県刈田郡七ヶ宿町)の概要

江戸時代、陸奥・出羽の諸大名の参勤交代の要路として羽州街道と奥州街道を結ぶ街道の宿場町として栄えており、この街道沿いに7つの宿場が置かれ、七ヶ宿街道と呼ばれていたのが町名の由来とのこと。

この町には平成3年に七ヶ宿ダムが完成しました。ダム建設に伴い三つの集落(追見・原・渡瀬)の158戸が水没することとなりましたが、流域の洪水調整、農地への灌漑用水、水道水、工業用水の確保など、多目的ダムとして現在はその役割を担っています。



写真1 七ヶ宿の入口(金山峠)

写真2 そば街道(滑津)

写真3 七ヶ宿ダム

基調講演

「羽州街道と地域づくり - 歴史的資源を活かした宿場町活性化を考える - 」

山形大学人文学部地域連携担当 村松 真 氏

1. 講演内容

今回は七ヶ宿の将来の展望を、宿場町として年間110万人の観光客を呼んでいる大内宿（福島県南会津郡下郷町）と、現在6戸10人の町となった綱木宿（山形県米沢市綱木）を比較し、将来七ヶ宿はどちらにもなる可能性があることを村松先生は述べられました。

大内宿は昭和42年に茅葺職人の取材で訪れた大学生により町並みの美しさを発見され、昭和56年には重要伝統的建築群保存地区に選定されています。大内宿は行政と住民との連携により歴史的な町並みの再生に取り組めた事例といえます。

一方で、綱木宿は火災などにより伝統的家屋が焼失し、残っていた家屋も維持管理が行われなかったために崩壊しています。また、町並みの保存が行政と住民の連携により行われておらず、住民も何から取り組めば良いのか途方に暮れている状況です。

先生があげた、二つの宿場町の比較項目を表1に示します。現在七ヶ宿に必要なことは人材育成のしくみと、地域が一丸とされる目標を設定することであると述べ、取り組みの段階を図2のように示しました。そのためには、行政との連携は不可欠であることを最後に強調しました。



写真4 村松先生



写真5 大内宿

表1 大内宿と綱木宿の比較

	大内宿	綱木宿
地区選定	重要伝統的建築群保存地区	
周辺道路	県道131号(2車線)が東側を通過	県道234号(途中から1車線・行止り)
観光客	110万人/年の入込客数	6戸・10人のひっそりとした生活
住民団体	大内宿結の会 20人(H10)	

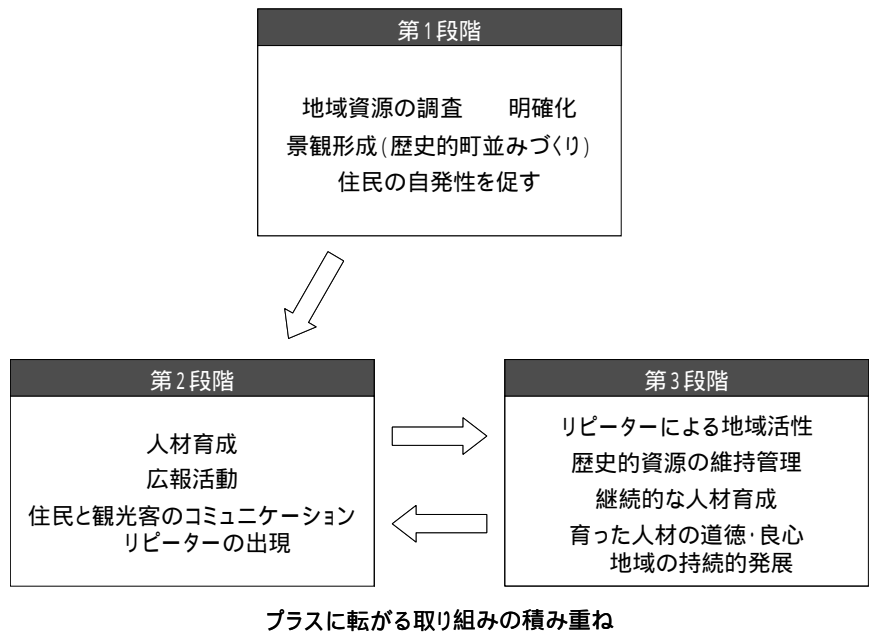


図2 歴史的資源を活かした地域づくりの段階的取り組み

2. 感想

観光として成功している大内宿と、衰退の一途をたどっている綱木宿を比較することで、今後の七ヶ宿の方向性を示していることに面白さを感じました。また、先生の現場での調査内容などはリアリティーがあり、村が20戸以下になると崩壊の危険性が非常に高いといった経験からの情報はとても参考になりました。

シンポジウム

テーマ「街道が地域づくりを変える」

- コーディネーター : 村松 真 氏 (山形大学 人文学部地域連携担当)
- パネラー : 熊本 裕司 氏 (福島県桑折町 桑折町商工会青年部長)
- : 和田 達 氏 (宮城県七ヶ宿町 滑津地域づくり委員会委員長)
- : 井上 睦夫 氏 (山形県上山市 NPO 法人上山まちづくり塾副塾長)
- : 黒丸 剛 氏 (秋田県美郷町 美郷町観光協会会長)
- : 山田 里美 氏 (青森県大鰐町 プロジェクトおおわに総務部長)

シンポジウムでは羽州街道沿線の東北 5 県からまちづくりに携わっておられる方々をパネラーに迎え、これからの街道と地域での取り組みについて意見を述べ合いました。

その中でも、私が印象的と感じた事柄を三つ挙げます。

1. 街道は地域をつなげる良い材料
2. 何かをする時に「補助金がもらえるから大丈夫」ではなく「汗を流すこと」が大事
3. 「顔の見える」物産交流は土地の人を幸せにできる

1. 街道は地域をつなげる良い材料

いろいろな地域で様々な活動が展開される中、街道というキーワードを使うことで、他の地域と容易に繋がれることをパネラーの方々は口々に話されていました。私の知っている研究対象地においては、様々な分野の多くの団体が独自に活動し、活動同士が摩擦を起こす状況もありました。そこで私はかつて地域に根付いていた「塩」の文化によって、地域内の活動を繋ぎたいと思いましたが、今回のシンポジウムを聞いて、地域と地域を結ぶという点で街道は大きな可能性を持っていることを知りました。

2. 何かをする時に「補助金がもらえるから大丈夫」ではなく「汗を流すこと」が大事

また、何かまちのためにしようとするなら、補助金ありきでものを考えない方が良いという意見もありました。『補助金がなければやらない位の考えなら、初めからやらない方がよい。何よりも汗を流すことが大事だ』といった黒丸氏の意見には、まちへの強い想いを感じました。

3. 「顔の見える」物産交流は土地の人を幸せにできる

そして、山田氏の話の中に「顔の見える」物産交流という言葉がありました。『田舎の方に行くと一生その土地から離れない人もいて、他の地域の食べ物を知らない人たちもいる。そんな人たちに今まで食べたことのないものを届けて、調理法を紹介したり、誰が作ったかを伝え、人を繋げることで、幸せを生み出すこともできる』と発言されていました。山田氏自身、食べることが好きなこともあり、「食」から繋げていくことへのこだわりと自信を感じました。

街道というキーワードでつながった人たちを集め、分野が異なる取り組みをしている人たちがお互いに話し、仲間意識が生まれていると感じました。こういった地域づくりの手法を見られたことは、非常に勉強になりました。



写真6 シンポジウムの様子

交流会「街道談義」

地元のお母さん方が山菜料理を振舞ってくれました。地元で採れる山菜のほとんどが使用された十種類の料理が出され、一つ一つ料理の材料と作ったお母さんが紹介されました。料理の紹介があるだけよりも、作った人の顔が見えた方が一層おいしく感じました。

そして恒例となっている地酒自慢大会。いろいろな地域のお酒が並び、これだけ多くの種類をいっぺんに味わったのは初めてでした。そして、全て自慢のお酒だけあっておいしいものばかりでした。

飲んで食べて話して、楽しい時間が味わえました。一次会が終わっても、民宿での二次会が夜中まで行われ大いに盛り上がりました。



- 1: 料理を作ったお母さん達の紹介
- 2: 山菜料理の数々
- 3: 持ち寄った各地の地酒
- 4: 地酒自慢大会
- 5: 民宿での二次会の様子

歴史街道探訪会 ～羽州街道「金山峠と干蒲宿の旧街道をたどる」～

コース: 山形県上山市榑下赤山 - 金山宿 - 金山峠 - 鏡清水 - 七ヶ宿町干蒲宿

山形県上山市榑下赤山(出発)

昨日遅くまで飲んでいたにも関わらず、皆さんしっかりした足取りでスタートしました。道の横には金山川(最上川支流)が流れていて、その横を上流に向かって登っていきます。



金山宿

この地名は徳川家光のころ日光東照宮に使用する金を採掘した金鉱跡があることに由来するそうです。間の宿あいのしゆくといって泊めることはできませんが、旅人の休憩所となった宿場だそうです。



金山宿を過ぎ、旧街道を進んでいくとどんどん山深くなっていきます。



一里塚

一里塚とは今で言う距離を示す道路標識のようなもので、一里毎に設置され旅行者の目印となったそうです。一般的に土の塚が多い中、ここは岩が多いため岩積みとなっているのでは?とのこと。



七曲がり坂

峠を越える手前でこの七曲がり坂があります。本当に七回曲がるのか皆さん数えていました。難所といわれますが、他の峠の難所に比べるとまだ歩きやすいそうです。それでもやっぱりきつい坂でした。



鏡清水

白石川(阿武隈川支流)の源流の「鏡清水」です。古くは大名家の姫君が顔を映す鏡代わりにしたとか。こちらの川は太平洋まで流れていきます。



七ヶ宿町干蒲宿

峠を越えると到着地の干蒲宿が見えてきました。七ヶ宿ではおなじみの原風景が広がります。



間の宿であった干蒲宿には、まだその名残が残っています。蔵も立派なものがあり、当時の面影を感じました。



お昼ごはん(山菜弁当)

歩き終えた後、最後に参加者みなでお昼ご飯を食べました。出して頂いたのは山菜弁当です。歩き疲れてお腹が空いていたので、ありがたかったです。



普通に歩くと1時間ちょっとの道のりらしいのですが、今回は解説も含めてゆっくり峠越えをしました。かかった時間は3時間でしたが、峠道の雰囲気を感じることのできる体験でした。

今回初めて本物の峠道を自分の足で越えました。難所といわれる程のものではないにも関わらず、私にとっては十分に大変な道でした。当時はこれに物を担いで越えることもあったと思うので、その大変さを身を以って体験できた良い機会でした。

